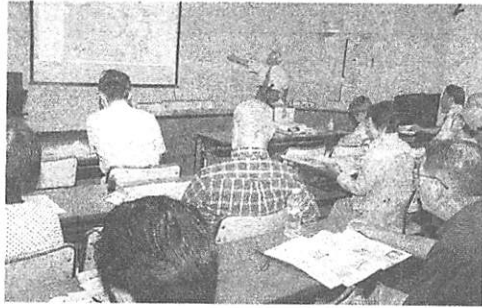


布良沖の惨劇新事実報告

戦争遺跡保存
全国シンポ

「赤山地下壕」でも新資料

戦後70年



地元の市民らが証言した
特別分科会(館山市で)

戦争遺跡保存全国シンポ
ジウムの特別分科会「米占
領軍の館山上陸と直接軍政
証言者のつどい」が6日、
館山市内で開かれた。同市
布良沖で撃沈された潜水艦
攻撃船「駆潜艇」とみられ
る艦艇を巡り、惨劇の概要
が新たに判明したことなど
が報告された。

撃沈を証言したのは「民
防空富崎監視哨」の哨員だ
った豊崎栄吉さん(86)(同
市布良)。「撃沈から生還
した士官の回想手記が最近
見つかり、発生日が194
5年5月29日で、船種は練
習駆潜特務艇とわかった。
救助には地元民が大勢かか

わった。犠牲者を慰霊した
い」と黙とうをささげた。

また、同市宮城の地下要
塞「赤山地下壕」建設で退
去させられた青山学院水泳
部合宿所について、同学院
高等部の佐藤隆一教諭が
「軍からの退去通告は41
年9月」とする新資料を紹
介、議論がある同地下壕の
建設開始時期に一石を投じ
た。

同シンポは戦争遺跡保存
全国ネットワークなどの主
催で5日に全国から約35
0人が参加して開幕。6日
の特別分科会は館山シンポ
独自の行事で、地元市民ら
8人が証言した。